274 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2025年8月3日号　　編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

迫る　広島で被爆した曽祖母の人生を追って　3日（日）＝1、3面

長崎支局の百田梨花記者＝**写真右**＝の曽祖母、福地トメ子さん（２０１３年死去）は、かつて広島で被爆し、その際にガラス片が目に刺さって失明します。百田記者は幼少時、トメ子さんに「なんで目が見えんの？」と尋ねたことがありました。その際、トメ子さんはその問いに答えず無言でした。百田記者が小学６年の時にトメ子さんは亡くなりますが、百田記者は次第に「無言」の理由を知りたいと考えるようになります。

トメ子さんの残した手記を調べ、トメ子さんの次女、美津枝さん（百田記者の大叔母）＝**写真左**＝などに聞き取りをします。

原爆資料館は被爆者の証言を公開しており、その中にトメ子さんの体験談も収録されていました。そこで彼女はこう言い残しています。「見たいです。明るさが」と。

百田記者は赴任した長崎支局で被爆関連の取材を進め、曽祖母がずっと抱えていた「思い」に徐々に近づいていきます。

戦後80年の８月、今一度、原爆の悲惨さを考えたいと思います。

そこが聞きたい　韓国から見た歴史和解　3日（日）＝くらしナビ面

戦後80年の今年は、日韓基本条約締結から60年の節目でもあります。ソウル大では７月に国際和解学会が開かれました。

主催したソウル大日本研究所の南基正（ナム・キジョン）所長＝**写真**＝は、和解学のアプローチは日本と韓国では少し違いがあると指摘します。分断国家であり、軍事政権が長く続いた韓国では、国内外の和解を重層的に研究したいという問題意識があり、日韓の歴史和解だけでなく、脱冷戦まで視野に入れていると語りました。

首相官邸

なるほドリワイド　戦後80年 政府の発信は　3日（日）＝総合面

終戦記念日の８月15日が近づいてきました。今年は戦後80年の節目の年です。

政府はこれまで、戦後50年から10年ごとの節目にあたって閣議決定を経た首相談話を発表してきました。今年も、歴史認識や今後の日本の針路を巡って政府がどのような発信をするかに注目が集まっています。

過去の例を振り返りながら、戦後80年について考えてみます。

特集ワイド　多様性の時代 ランドセル選びにモヤモヤ　5日（火）＝夕刊2面

「じゃあ、これにする！」。小学校入学後に使うランドセル選びで、鮮やかなピンクの商品を手に取った息子の笑顔を前に、母親は考え込みました。ジェンダーレスの時代、個性が尊重されるようになったとはいえ、「男の子は、女の子は……」と社会的に固定された慣習も根強く存在します。好きなものをあきらめたくない――。

子どもたちの思いを実現するために必要なものとは何かを考えます。

竹橋の窓辺から　編集後記

夏の甲子園に出場する全49校が出そろい、３日には大阪市内で組み合わせ抽選会が行われます。毎日新聞社と朝日新聞社は「高校野球応援キャンペーン」を実施中。毎日コースにご応募いただくと、優勝旗柄のモバイルバッテリーや防災ボトルなど高校野球応援グッズが抽選で当たります。締め切りは８月31日。QRコードからぜひご応募ください。（長尾真央）

毎日新聞

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。